

2019年9月



NPOグラウンドワーク東海

パートナーシップで地域の環境創造を

第67号 News Letter

NPO 法人 グラウンドワーク東海

環境デー名古屋中央行事（名古屋市主催）へ参加。皆様もブースへお寄りください。

日時・会場：9月14日（土）10：00～名古屋栄エンゼル広場

全体企画は名古屋市の以下のホームページ <http://kankyoday.com/>で順次更新中です。

グラウンドワーク東海はこれまで山から海への生物連続性をイメージして、ブースに滝を作り来場者の注目を集めてきました。しかし、滝に展示スペースをとられて、グラウンドワーク活動紹介スペース確保が悩みでした。

今年はスペースを有効に使うため滝展示をやめ、グラウンドワーク活動紹介に力点を置きますので、活動団体の展示も受け入れられます。展示希望をお寄せください。事前に連絡いただければ前日または当日現場持ち込みも可能です。

今年の一般向けサービスは昨年に引き続き愛知県内防災備蓄水のテイスティングです。水温など条件を合わせておきますので水源・上水方法別の味のの違いから各地の特徴を想像してみましょう。



愛知サマーセミナー2019に参加して

今年も南山大学を中心会場として講師も生徒も自主参加で約2000講座が開講されました。グラウンドワーク東海からは竹谷理事長、原田副理事長、山本副理事長、服部理事、山本事務局員が講座を開設しました。主催者によれば今年の参加者は68,000名で7万人に手が届くところまできた。来年はオリンピックのため日程を早め2日間に圧縮せざるを得ないが、7万人を目指すとのこと。

今年はプロジェクター映写データをQRコードを通じ、スマホなどを利用して現地やホームページからダウンロードできるサービスを行いました。しかし、最大の障害は昨年と同じく酷暑に伴う生徒動員。以下に講師の皆さんの感想を掲載します。全体的な講座内容はサマーセミナーのホームページをご覧ください。

<http://www.samasemi.net/>

【原田郁郎】「養殖・放流をしないでホタルを増やそう」

各地で復活を願って養殖や放流をしていますが、そのことで生態系を乱している地域も見受けられますが、内山川では、養殖や放流を一切行わずに、多米小学校の児童とともに増やす活動を行っています。

感想▶今年度は生徒が1人で大人が4人と生徒の数がとても少なかったですが、ホタルの環境適応能力を上手に活用して、安易な養殖・放流をしないで着実にホタルを増えることを理解してもらえたことは意義のあることでした。来年もこのサマーセミナーで多くの方々に養殖・放流をしないでホタルは増えることをアピールしていきたいです。

【原田郁郎】「公共工事にチャレンジ」

公共工事はどの国や自治体で行うのが当たり前と思われてきた実際に市民が自分たちで係わって作っている施設もあります。みんな身近な施設を係わって行う方法について考えてみよう。

感想▶公共工事が税金で賄われているが税収も伸び悩むなかで効果的に公共工事ができるためには何ができるのかとの問いかけにも考えて答えてくれたりした。内容的に自治体の財政の話があり少し高校生・大学生には難しい部分もあったようだが最後に難しかったけどその仕組みが分かってよかったといってくれてうれしかったです。

【竹谷裕之】「今、農業が面白い」

若い人に農業への関心が広がっている。今の農業の具体的な姿を、愛知県内の事例を取り上げ示すことで、その魅力を理解する講座とする。"

感想▶今回、参加者が少なかったが熱心に聞いてくれた。

特定非営利活動法人グラウンドワーク東海

〒461-8508 名古屋市東区東桜 2-3-7-616

TEL/FAX 052-935-7430

事務局携帯 080-5157-7203

E-mail npo.gw-tokai@ab.auone-net.jp

<http://www.npo-gwtoukai.org/>

【竹谷裕之】「ケニヤ・ビクトリア湖と周辺域の環境問題」

ビクトリア湖はアフリカ大地溝帯にあり、琵琶湖の100倍広い。この湖と周辺域の有様は住民の生活を左右し、地球の環境問題を考える上でも重要である。この地域の具体像を負いながら、どう向き合うか考える。**感想**▶高校生が1/3、市民が1/3の構成で話を聞いてくれた。質問では援助団体との関係、活動組織の連携、人材育成上の課題など出された。また政治体制との関わりもどう考えたらいかがとの質問も出された。高校生の理解がどの程度であるのか、もう少し質問が出るとよかった。

【前田 純 合同会社つむぎて・雑草料理研究家】「雑草の栽培と活用」



中山間地域を中心に人口減少、高齢化の影響で雑草管理が難しくなっている。その対策として雑草を食料資源として活用することを考える。

感想▶内容的に人が来るのかが分かりませんでしたが20名以上も来ており、大変楽しい講座となりました。雑草に少しでも関心を持ってもらえればと思います。

【山本千夏】「うちにホタルがやってきた」



平成11年「蛍が舞う姿をもう一度」と広報が募ったヘイケボタル再生ボランティアに参加。抗えない自然の驚異からホタルを守るため始めた里親制度に挑戦する5年間の記録。

感想▶初めての参加でしたが熱心に聞き入ってくれる生徒さんたちの様子に感動しましたまた違うテーマで話してみたいと思いました。

【服部久人】「協働による緑の育成～モリコロパーク～」

愛・地球博記念公園における「ギフチョウの舞う森づくり」等の活動事例を紹介し、市民みんな(多様な主体)が関わって緑(環境)を保全・育成していく方策を探ります。

感想▶私の魅力不足、PR不足で受講者が2名しかなく、少々さみしい状況であったが最後までしっかりと聞いていただけてうれしく思いました。もし次に講師参加することがあったならば、もう少し人を集めることに注力しようと思います。サマーセミナーを企画・準備して下さった皆様方どうもありがとうございました。

【竹谷裕之】「グラウンドワーク活動による地域環境の改善」

私たちの生活が変わってきたことで、ホタル一つとっても身近でなくなり、地域の環境との付き合い方も受け継がれなくなってきた。いくつもの地域で取り組まれている環境改善活動から次世代につなぐ方法を考える。

感想▶住民・企業・行政の協働による地域環境保全と活性化をお話した。質問として他のまち作り、むらづくり組織との違いについて尋ねられた。全国組織、ブロック組織、現場を抱える地域活動組織の仕組みを生かし、パートナーシップを組んで取り組んでいる点、特性を見て欲しい点、回答した。

※セミナーに参加した人の感想については、主催者が抽出し「感想報告集」としてまとめられています。GW事務局に1部ありますので貸出可能です。

2019 年度第 1 回フォーラム意見交換記録概要

私なら【雑草】とこう向き合う

2019 年 6 月 15 日 14：00～17：00 名古屋市東区東桜 2-3-7（東カンビル） 2 F 会議室にて「2019 年度グラウンドワーク東海第 1 回フォーラム」として、進みつつある人口減少・高齢化に対して雑草とどう付き合うのか具体的な意見交換を行った。

【理事長あいさつ】

前回 1 月のフォーラムでは雑草放置のリスク、雑草維持管理の工夫について参加者は少なかったが深い議論ができた。

【ゲストスピーカー 1】（公財）河川財団名古屋事務所 山内所長



テーマ：堤防の植生を考える

資料：平成 30 年 11 月 28 日の財団名古屋研究発表会論文集

当財団の青山、山本が堤防除草について発表したもので今回紹介する。

堤防植生の役割は法面保護、浸食防止。景観など良い環境の提供。

現状の課題、問題として堤防建設時に法面に張った芝に代わってセイタカアワダチソウなど背の高い帰化植物が繁茂している。その結果、河川巡視で異常が見つけられなくなる、芝に比べて除草量が大量になるので処分費が増大する。放置すれば防犯上の懸念もある。

しかし、現実問題として河川維持費がきびしいので十分な除草ができない。新堤除草は年 2 回がせいぜい。1 回刈の所もあり芝が維持できてない。芝維持は年 4 回刈が必要。

一方で、害虫対策の薬剤散布で植生が枯れて裸地となった堤防が洪水で浸食された例がある。

これは H 2 年 3 月からの河川区域内農薬(除草薬)使用禁止。H 1 3 からの刈り草野焼き原則禁止。H 2 3 からの直轄河川維持費の地方負担金廃止で予算減の結果である。

管理不十分で河川区域の樹林化が進行して流下能力不足が問題になっている。除草をしても、種落下後の除草となり草量が減少してない原因なのかもしれない。除草のタイミングが問題。多年生の場合除草しても根からも発芽するので草量は減少しない。

成長抑制剤の適用

渡良瀬川の河川外で実験実施、将来堤防実用化を期待。

薬剤使用は安全確認の手続きにコストがかかり、食用目的以外ではペイしないことがわかった（配布資料によれば、農業用薬剤では 1 種類開発に 10 年 10 億円くらいのコストをかけている）。高価について通常管理と薬剤散布の比較実験結果では 2 年目では芝保全効果に差がでている。財団では産官学バイオマス利用研究も行っている。地域資源として雑草のペレット化を多摩川で実験。

ペレットストーブ利用などを考えている。

（会場との意見交換）

・ペレット化は実用化できるといい。特に災害備蓄として活用。問題は間伐材ペレットと同様に製造プラントが高価なこと。

・除草作業も人手不足になる可能性があり、代替として薬剤もありうるのでは……。堤内地(堤防で守られた土地)は薬剤フリーの現状がある。

【ゲストスピーカー 2】合同会社つむぎで 雑草料理研究家 前田さん



テーマ：雑草料理は楽しい

資料：2 種 無料雑誌「雑人」（長久手市紹介雑誌）活動拠点(2018 年 10 月号 P21)、雑草料理(2018 年 12 月号 P31)

農業、貿易の会社を 4 年前から運営している。日本の耕作放棄地では雑草種類はおおむね 2 0 ～ 30 種類である。

昔から雑草は利用されてきたが、現在では利用は珍しい存在となっている。事例として雑草繊維の利用、昔と現在。草木染など紹介(Ex.クズ繊維の草履、布～現在は途絶えた技術)。

現在では手仕事なので高価となるが「雑草」といわなければ逆に価値が認められる。例えばありふれた「雑草」であるアカザの幹の杖。アカザは 3 m／年成長するが軽くて丈夫な杖になる。価格は数万円になるものもある。私たちは、現在ボールペンの軸に利用試行中。エネルギー源としても可能性を探っている。

雑草料理

ちゃんとした料理本はない。そもそも「雑草」を食べたい人はいない。だからちゃんとした料理に使うことを目指す。例えば一番お手軽には「お茶」、「味噌」、「ふき味噌」など。

「雑草」入りケーキはコース料理に使えば 12,000 円コースになっている。「雑草」と言わず価値(栄養・美容効果)を伝えれば需要はある。セイタカアワダチソウのクッキー 500 円など松坂屋で販売中。

「雑草」入りジェラートもプロの料理人、デザイナーと組んで開発したが好評。

販売継続のためには「雑草」の効率よい栽培・採取も必要。ベトナムのホテイアオイ繊維採取・利用は事例である。

ワチサ（「雑草」といわない別名として命名）は意味ない名前だが「雑草」では耕作放棄地でも地元は栽培させてくれない。地域との連携のための方便。5 年継続している。

100 種類以上栽培。雑草は 600 種以上あるので選択の幅は広い（(注)「日本原色雑草図鑑」沼田真・吉沢長人でも 500 種以上としている。）

料理材料販売例としてヨモギのレトックス（湯で蒸して体に当てる）、栽培セイタカアワダチソウの天日干し・袋詰めの販売は昨年 88 キログラム、今年までに完売した。栽培ヨモギもベニバナ生産、ハー

ブとして利用。

雑草知識の伝達がポイント

ただし、管理栽培された「雑草」以外はむやみと食べない。中毒リスクは避けること。毒草も多い。

会場との意見交換

・堤防の「雑草」は毎年除草しても変わらず生えてくる。栽培「雑草」の場合、無農薬・無肥料とのことだが栄養収支はどうなっている？

・ヨモギを例にすると成長に伴って栄養は根に残っている。周辺の土の栄養は減っているはず。持続的栽培のためには休ませるため焼畑も将来必要かもしれない。詳細は研究課題。チガヤの場合、栽培実験では 2 g の肥料で 100g くらいになった。雑草は肥料効率が高い。適地を変えて栽培すれば継続する。・堤防にたくさんセイタカアワダチソウなど「雑草」がある。利用できないか？

・私たちは始めたばかりなので実績がない。信用がないので役所相手の取引は難しいが、可能なら考えたい。ようやく 5 年たって実績ができてきたので商売になるようになった。野菜よりはるかに採算性はいい。製造手間もかかっているが売りやすい(安い)値段設定だと逆に売れない。マーケティングが重要。10,000 円／人ツアーで現地に来てもらって売ることやっている。

・モリコロパークでもセイタカ栽培をやりたい。金をかけて除草すると売るのとでは真反対。

（竹谷理事長まとめ）

・プロとの連携コラボで消費者に届けることがポイント。・漢方医学と西洋医学の歴史と似ている。「雑草」も価値が認知されてきた。

2019 年度大江川クリーン作戦

（NPO グラウンドワーク東海後援）

※写真は昨年

日時：11 月 9 日(土)9:00 開会式 9:30 作業開始

場所：開会式・天道公園、作業・大江川

いっしょにグラウンドワークやりませんか？

会員募集中